

ファイナンス 連続セミナー

企業業績の回復が続いていますが、米国景気の減速、世界的大競争時代の到来等、経営の舵取りはますます難しくなるばかりです。また、ここに来て家計にも動きが出てきました。預貯金一辺倒から証券投資へのシフトです。このような経済情勢を背景に、今回は、証券化、M&A等、関連4テーマを取り上げてみました。ファイナンスの応用領域はますます広がっており、是非、その醍醐味を味わってください。ご来場をお待ちしています。

参加費無料、事前申込不要です

第1回

9月27日(水)

19:00~20:00

アプロースタワー
13階8号室

「投資家心理と株価:

最新の研究が示唆する、身を守るための投資術」

岡田 克彦 関西学院大学経営戦略研究科専任講師

第2回

10月4日(水)

19:00~20:00

アプロースタワー
13階14号室

「北越製紙をめぐる敵対的 TOB の考察」

平木 多賀人 関西学院大学経営戦略研究科教授

第3回

10月12日(木)

19:00~20:00

アプロースタワー
13階14号室

「リアルオプション、ゲーム理論で考える経営戦略」

甲斐 良隆 関西学院大学経営戦略研究科教授

第4回

10月20日(金)

19:00~20:00

アプロースタワー
13階10号室

「資産証券化の可能性—

“変わることができる”ことに価値を求めて」

北 康利 みずほ証券

インベストメントバンキングプロダクツグループ
制度・ニュービジネス担当部長

*アプロースタワー (大阪市北区茶屋町 19-19)

交通機関

JR大阪駅 御堂筋出口から10分

地下鉄 御堂筋線中津駅④出口から4分

阪急梅田駅茶屋町出口から6分

◇ 講義内容 ◇

第1回 「投資家心理と株価： 最新の研究が示唆する、身を守るための投資術」

講師：[岡田 克彦](#) 関西学院大学経営戦略研究科専任講師

昔から投資ファンドや未公開株を利用した詐欺はよくありますが、なかなか後を断ちません。なぜでしょうか？ それは、一部の大儲けしている人たちがマスコミに露出する中で、「もしかしたら秘密の方法が…」と私たちが考えてしまうからかもしれません。そこで、今回のファイナンスセミナーでは、投資家心理の話に触れながら、内外の最新実証研究結果をベースにどこまでが「ありそうな話」で、どこまでが、「ありえない話」なのかをお話します。

第2回 「北越製紙をめぐる敵対的 TOB の考察」

講師：[平木 多賀人](#) 関西学院大学経営戦略研究科教授

本年の王子製紙による北越製紙株主へのTOBは、経営モデル（個別成長戦略対業界再編）をめぐる経営者同士の敵対であり、主要株主だけでなく一般株主や広汎なステークホルダーをも巻き込んだ本格的TOBの様相を呈した興味深いケースでありました。本講演では企業価値が期待レベルでどのように実現されていくかを、北越が導入した広汎な買収防衛策、王子の対抗措置、両者の提案合戦、あるいは競合他社他（例えば日本製紙）参戦などに対する市場の反応という観点で考察します。

第3回 「リアルオプション、ゲーム理論で考える経営戦略」

講師：[甲斐 良隆](#) 関西学院大学経営戦略研究科教授

めまぐるしく変化する経営環境においては、既存業務に安住することなく、事業拡大や新分野開拓の機会を創出していく活動がとても重要になります。リアルオプション法とは、無数の選択肢から企業価値を永続的に高める経営戦略を体系的に絞り込んでいくアプローチであり、さまざまな分野で利用が試みられています。短期利益と長期利益のトレードオフ、先行投資の有効性等を題材に、理論の概要と応用のポイントについて解説いたします。

第4回 「資産証券化の可能性－ “変わることができる”ことに価値を求めて」

講師：[北 康利](#) みずほ証券 インベストメントバンキングプロダクツグループ
制度・ニュービジネス担当部長

わが国において資産証券化がこういった社会的背景の下で発展したか、企業調達の観点からのメリットとデメリットはなんであるかを詳述するとともに、証券化のスキームと実際例をご紹介します。その上で、資産証券化市場が抱える問題点とそのフロンティアについても言及いたします。